

事後評価シート

調査研究課題名	第三国輸送及び空陸連携を踏まえた長距離旅客輸送の動向等に関する調査研究
担 当 者	主任研究官 可児貴明
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、空港及び航空会社における航空旅客の第三国輸送の動向等並びに空陸連携を調査することにより、我が国の長距離旅客輸送のあり方の検討に資する基礎資料を作成することを目的に、令和 6 年度及び令和 7 年度の 2 か年にわたって実施したものである。</p> <p>第三国輸送については、海外及び日本の取組、動向等の文献調査及びヒアリング調査並びに空港の旅客数等及び乗継空港に関するデータ分析を実施した。調査対象においては、第三国輸送の獲得に向けた取組を進めており、ハブ空港化及び第三国輸送の拡大を今後も進めていく意向であることを把握できた。また、データ分析からは、空港の類型化及び日本の空港で乗り継ぐ旅客の発着国別の増減等の把握ができた。さらに、第三国輸送の需要獲得の取組を進める際の留意事項を示すことができた。</p> <p>空陸連携については、欧州における取組、展望等の文献調査及びヒアリング調査を実施した。環境対策、逼迫する空港の発着枠の確保及び他社との差別化が空陸連携の背景にあること、及び、列車が空港に乗り入れている事例が多数ではあったが、一部には、駅と空港との間をタクシーで結ぶこととしているもの等があることを把握できた。また、空陸連携の導入を検討する際の留意事項を示すことができた。</p> <p>したがって、当初の目標を達成できたと考える。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>第三国輸送については、旅客数、乗継可能な便数等を、空陸連携については、その歴史、特徴等をそれぞれ考慮のうえで調査対象を選定した。文献調査で把握した内容を踏まえつつ、ヒアリング調査を行うこと等により、取組内容、現状、意向、展望等を的確に把握でき、留意事項も示すことができた。</p> <p>したがって、本調査研究の内容は妥当なものとする。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進める過程では、国際航空ネットワーク又は空陸連携に関する知見を有する有識者に対して、ヒアリングを実施し、様々な角度からご意見をいただいた。</p> <p>したがって、本調査研究の仕組みは妥当なものとする。</p>
④ 成果と活用	<p>本調査研究の成果を記した報告書を、当研究所のホームページで広く公表することを予定している。</p>
⑤ その他	<p>本調査研究の成果の一部については、当研究所が主催する令和 7 年度及び令和 8 年度研究発表会において報告を行うとともに、国土交通政策研究所紀要第 83 号において公表済みである。</p>